

報道関係者 各位

北海道札幌市におけるオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示す

新型インフルエンザウイルスについて

北海道札幌市から、タミフル耐性を示すH275Yの遺伝子変異を持つ新型インフルエンザウイルスが分離され、薬剤感受性試験により薬剤耐性が確認されたとの報告がありましたので、その概要について、別紙のとおり、情報提供します。

(広 報 メ モ)

平成22年(2010年)1月22日(金)16時
保健福祉局保健所感染症総合対策課

抗インフルエンザウイルス薬「タミフル」に耐性を示す 新型インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1)の確認について

札幌市衛生研究所にて実施しているウイルスサーベイランスにおいて、患者から検出された新型インフルエンザウイルスについて、オセルタミビル(商品名:タミフル)に対する耐性が確認されましたので、その概要をお知らせいたします。

なお、厚生労働省によれば、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異は、ウイルスの重篤度(病原性)には、直接影響を及ぼすものではないとされています。

1 ウイルス検出の概要

- 平成21年12月24日(木)、札幌市衛生研究所における検査(遺伝子解析)において、11月18日(水)に採取した咽頭ぬぐい液から検出された新型インフルエンザウイルスから、オセルタミビル耐性マーカーH275Yを検出。
- 平成22年1月21日(木)、国立感染症研究所における薬剤感受性試験において、上記ウイルスのタミフル耐性、ザナミビル(商品名:リレンザ)感受性を確認。

2 経過

- 患者(9歳、男児)は、11月17日(火)に発熱(39.8℃)し、タミフルの内服を開始。11月18日(水)に、札幌市内の医療機関を受診し、インフルエンザ簡易迅速検査でA(+)を確認し、検体(咽頭ぬぐい液)を採取。
- その後、患者の周辺地域において、これまでに、タミフル内服後に症状が改善しなかった者や患者数の異常な増加、集積等は確認されず、周囲への感染拡大は認められなかった。
- 患者が11月17日(火)に服用したタミフルは、患者の兄妹が11月17日以前に発症し、医療機関を受診した際に、処方されていた。

3 その他の検査状況等

- 平成22年1月22日(金)現在、これまでに札幌市衛生研究所で検出された新型インフルエンザウイルス416検体(検体採取日:6月11日~12月18日)について、タミフル耐性の調査を行った結果、患者が受診した医療機関から提出された検体のウイルスを含め、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異を確認したのは、10月7日(水)発表の1検体と合わせ2例目となっている。
- 北海道内におけるタミフル耐性遺伝子の確認は3例目。
- 日本国内では、本事例でタミフル耐性遺伝子の確認は38例目。

【問い合わせ先】

新型インフルエンザ全般について:保健所感染症総合対策課 細海、横澤(TEL 622-5199)
検査方法等について :衛生研究所生活科学課 (TEL 841-8875)